



「いけるよ！徳島」 踏ん張り中 ～知恵は地方にこそあり～

徳島県知事 飯泉 嘉門

平成二十一年度は、「百年に一度の経済危機」から一日も早く脱却するため、「県内事業者や県民生活を何としても守る」との強い決意の下、県政史上初の「五月補正予算編成」を始め、「緊急的な経済雇用対策」に全力を傾注してきました。

同時に、「将来の徳島発展への礎」をしつかりと構築するため、「低炭素社会」や「医師不足」への対策を始めとする「徳島県総合経済雇用対策」を取りまとめ、計八回で総事業費千九億円に上る「切れ目のない補正予算」を編成するなど、「徳島ならではの」新成長戦略も強力に展開してきました。

その結果、雇用面においては、「県内有効求人倍率」は、昨年に引き続き、今年に入っても低いながらも全国第二位、四位を維持し、平成二十一年の「県内企業倒産件数」は、過去十年間において最少の六十件、しかも全国最少となるなど、その成果が着実に見え始めてきました。

平成二十二年当初予算は、厳しい局面から一日でも早く脱却するため、これまでの新成長戦略により出てきた芽を伸ばすための工夫も加えながら、「経済・雇用」と「安全・安心」への対策に重点配分を行いました。

また、国の公共事業予算が大きく削減される中、県内の厳しい景気動向を踏まえ、「県単公共」を前年度比で約一・九倍に増額するなど、「公共事業予算の崩壊」を何とかくい止めるよう努めた結果、予算総額では約四千五百九億円と、九年ぶりの増額を行い、「緊急経済雇用対策の集大成」として、県民の皆様が、将来に対して希望を持てる予算となるよう編成しました。

平成二十二年当初予算の特色

① 「経済・雇用対策」

中小企業向け融資制度において、過去最大の融資枠を確保するなど、「がんばる中小企業」への支援の強化や、成長が期待されている介護、医療、環境等の分野で約八百人の雇用を創出するなど、「切れ目のない経済・雇用対策」を機動的に推進します。

また、「LEDバレイ構想」に基づく二十一世紀の光源LEDを利用した光関連企業の工場、研究所の集積促進や全国有数のプロードバンド環境である本県の優位性を生かした成長の期待度が高いアニメ・映像・音楽等のデジタルコンテンツ産業の創出など、「徳島ならではの」新成長戦略の展開」に取り組み、県内経済の活性化や雇用の確保に努めます。

② 「安全・安心への対策」

徳島大学と連携し、県立病院における救急医療、外科医療、産婦人科等に寄附講座の開設や、医学部の学生に対する修学資金の貸与枠の拡大等の医師確保対策など、「地域医療が抱える諸課題への抜本的な対策」に取り組みます。

また、治水、利水、環境の課題解決を目指す「長安口ダム改造事業」の推進や、平成二十二年末までに、県有施設の耐震化率七〇%を目指すなど、「いのちと暮らしのセーフティネットの確保」に取り組み、安全で安心して暮らせるとくしまの実現に努めます。

財源ありきの予算編成スタイルからの脱却

「財源ありき」の従来型の考え方から脱却し、「知恵は地方にこそあり」と、「徳島ならではの」全く新たな発想で本県独自の先導的な取組みを進めます。

まず、予算額の計上にこだわらず、新たな県民サービスの向上やさまざまな行政課題の解決を図る「とくしまトクトク事業」を全面的に展開します。

次に、新たな試みとして、「二の足を踏む」経済情勢の中、対策が急務であり、また、実施主体の意欲も高く、直ちに効果が表れる可能性の高い「実証実験」や「モデル事業」を積極的に推進します。

さらには、県民からのお問い合わせに、たらい回しを防ぎ速やかに対応する県庁コールセンター「すだちくんコール」の運営や工事提出書類の簡素化を始め、県民サービスの向上や事業者負担の軽減化を図る「業務棚卸し」を推進するなど、庁内の叡智を結集し、「いけるよ！徳島」踏ん張り中を合言葉に、「拳県一致」で県民の皆様とともに、ピンチをチャンスへとつなげ、将来への希望を持っていただけるよう全力を傾注してまいります。

財政構造改革への効果的な取組み

これまで積み重ねてきた改革努力の結果、公債費は二年連続減少し、平成十八年度以来、四年ぶりの八百億円台となり、また、投資的経費の重点化により、実質的な交付税である臨時財政対策債を除く新規発行県債は、昭和六十一年度以来、二十四年ぶりに三百億円を下回るなど、その成果が着実に現れており、引き続き持続可能な財政運営に取り組みまいります。